

# Bridge Asia Japan BAJ

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

## 年次報告書

2015年1月1日～12月31日

2015年度

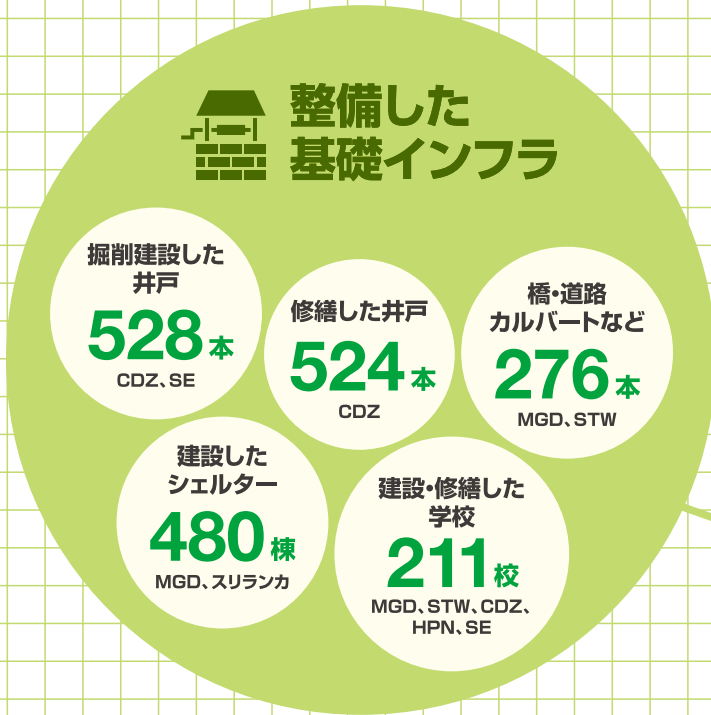


# 1998~2015年までの BAJの活動成果

## 技術・技能研修



## 整備した 基礎インフラ

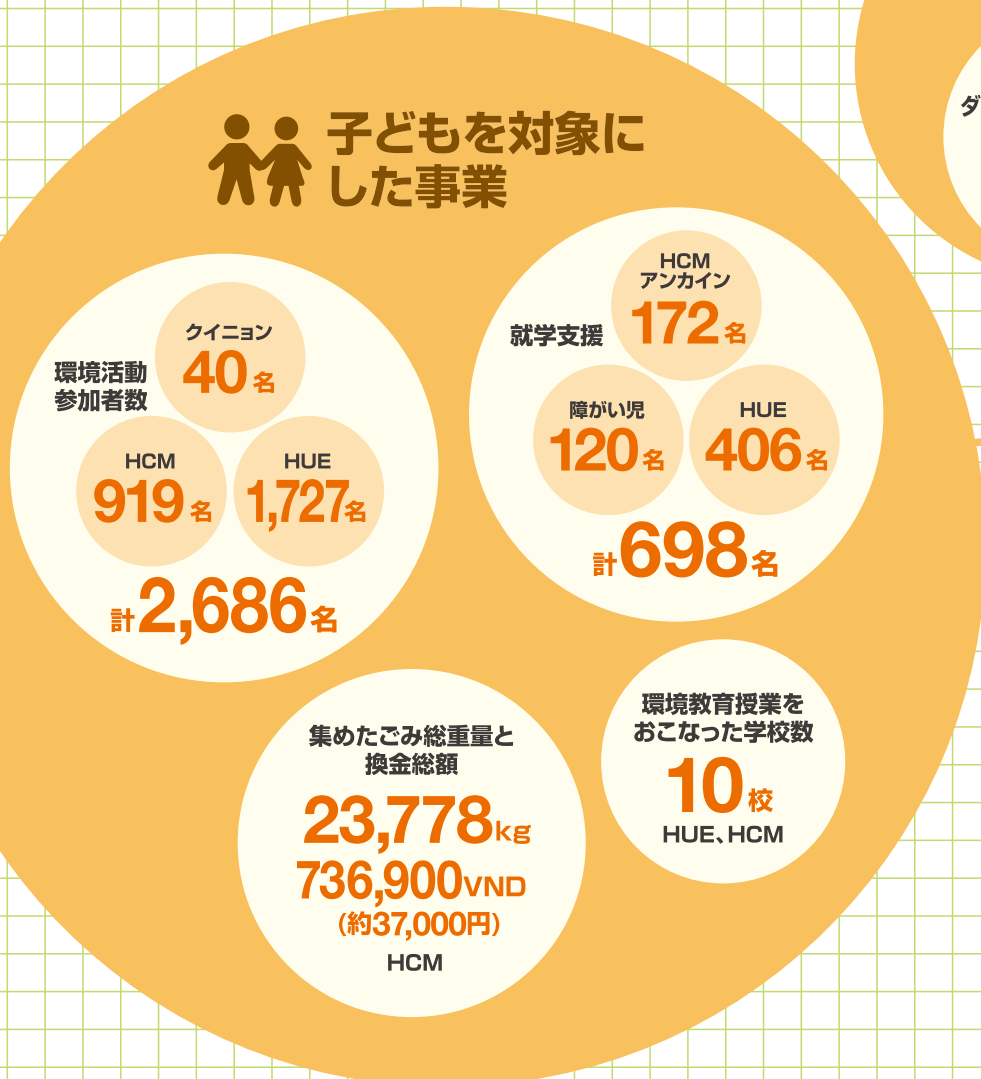


注)  
MGD:マウンドー  
STW:シトウェ  
CDZ:中央乾燥地  
HPN:パアン  
SE:南東国境  
以上ミャンマー  
HCM:ホーチミン  
HUE:フエ  
VND:ベトナムドン  
以上ベトナム

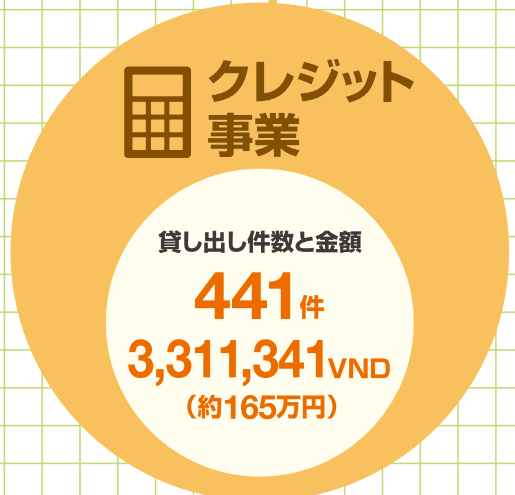
## 農家 支援事業



## 子どもを対象に した事業



## クレジット 事業



## ごあいさつ

気候変動や難民問題など国際社会で起きている問題について、日本も無関係ではありません。こうした国境を越える問題に対し、2000年に「ミレニアム開発目標(MDGs)」が国連で採択されました。達成年度の2015年を迎えるにあたり、数年をかけて議論が続けられてきており、その結果2030年までの新たな目標として「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、各国で取り組みへの動きが始まっています。

持続を可能とさせる3つの側面である経済・社会・環境に対して、国連やNGOに加え、各国政府はもちろんのこと、企業や自治体、そして私たち個人も何らかの行動を求められています。「格差と貧困」「大量生産・大量消費」「気候変動」「世界人口の変化」などの課題に対し、私たち先進国も含めたすべての人々が身近な問題として、課題解決に努力する必要があります。なかでもNGOが果たす役割は大きいと考えますので、私たちの活動も今後は、SDGsを意識して進めていきます。

2015年も多くの方々からご支援をいただき、あらたな感慨を持って2016年を迎えることができました。これもひとえに皆様からのご理解、ご指導の賜物と、心から感謝を申し上げます。



認定特定非営利活動法人  
ブリッジ エーシア ジャパン  
理事長 **根本 悦子**

## 4 BAJの 3つの使命

私たちはいま、貧困、難民、環境破壊、テロなど、国境を越えた世界規模の問題に直面しています。BAJは、こうした解決が不可能と思われる問題に対し、地域から考え、地域で行動をはじめることによって解決の道を探ります。特に日本と関係の深いアジアの人々との共生を実現するために、政治体制や民族、宗教、言語、文化の違いを越えて、相互理解の架け橋となるようお願いしながら、4つの使命を定め、活動を進めています。

### 1 技術習得や能力強化の機会を提供します。

帰還民や国内避難民、障がいを持つ人や教育の機会に恵まれなかった青年、雇用機会の少ない女性など貧困層を対象に、地域にある適正技術や伝統技術を活用し、新しい技術も取り入れながら、技術習得や能力強化の機会を提供します。

- ① 貧困青年を対象に技術研修を実施(電気、車両整備、溶接、裁縫など)
- ② 貧困層の子どもや障がい児を対象に就学支援

### 2 収入向上を支援します。

習得した技術を収入に結び付けるため、必要な知識や具体的な場を提供し、自立を支援します。

- ① 技術を習得した青年の就労支援
- ② 伝統農産物の復活と販売ルートの開拓

### 3 地域発展のための環境基盤を整備します。

地域経済を活性化させるための基盤となる学校や橋、井戸の建設など、地域住民の参加を得ながら進めます。実際の建設では住民に“オン・ザ・ジョブ”で実地訓練をおこない、保守や管理を住民が担えるように支援します。

- ① 住民参加による学校建設
- ② 貧困農家を対象にバイオガス・ダイジェスターを設置
- ③ 生活用水を確保するための井戸建設や井戸修繕

### 4 環境を守り啓発を進めます。

環境に負荷をかけない農業技術を進め、安全な食材の普及を進めます。また子どもたちを対象に、環境教育の場を設けて活動を進めています。

- ① 井戸や校舎を建設した村の住民を対象に、保健衛生指導
- ② 子どもたちと地域の川の水質調査
- ③ 災害リスクを低減するための防災教育の実施



# MYANMAR

## 海外支援活動事業

# ミャンマーでの活動

BAJはミャンマー西北部のラカイン州で、1995年より活動を開始し、中央乾燥地域、南東国境地域、デルタ地域と、活動地域を拡大してきました。2015年は、ラカイン州で開始している学校建設プロジェクトの推進と、カレン州パアンで進めている技術訓練学校の充実に努めました。

2015年のミャンマーでは大きな動きがありました。長期にわたる交渉を経て、10月には少数民族15グループのうち8グループがミャンマー政府との停戦合意に署名し、全国停戦合意の一步を進めました。これにより署名した地域に対し、食料配布、コミュニティインフラ整備、人材育成などが順次実施されます。11月8日、総選挙が実施され、軍政の流れをくむ政権与党(USDP)に大差をつけて国民民主連盟(NLD)が圧勝し、政権移譲を進めることになりました。

法整備も進められています。最低賃金法により日当3,600チャットと定められた結果、多くの労働者を抱えた縫製工場のなかには撤退する企業も出ています。その他にも、ティラワ経済特区(SEZ)の開所、日本の支援による証券取引所の開所も進められました。

一方で、7月に続いた豪雨により、ミャンマー全土で130万人が被災という洪水に見舞われ、BAJはラカイン州北部で損

壊した小学校校舎の再建・修繕をおこないました。また課題として、国際社会はもちろんのことミャンマー国内でもさまざまな支援団体が増えており、BAJの現地職員の転職が頻発し、今後の事業推進に向けて何らかの対応策が必要となっています。



# 1 ラカイン州の活動

7月の豪雨に続き、サイクロンメコンの襲来もあり、ラカイン州は最も甚大な被害を受けました。被害を受けた700校以上が閉校となり、また北部では主要道路の土砂崩れにより、物流が途絶え、物価上昇により人々の生活に大きな影響がありました。

## 1 車両や機械類の整備事業 【資金:UNHCR】

ラカイン州で活動するUNHCRをはじめ国際機関やミャンマー政府機関の車両、発電機、船外機などの保守や修理と、燃料のろ過サービスを通して、各団体の後方支援を進めました。



船外機の整備をおこなう

## 2 農業機械研修 【資金:UNHCR】

2012年の紛争の際に最も民族対立が激しかった村16村に、両民族からなる農業委員会を作ってもらい、2014年に供与したトラクターやポンプなどの農業機械についての研修を41回実施し、延べ218名が参加しました。



上)下)農業機械の使用法、修理、メンテナンスについての研修の様子

## 3 インフラ整備事業 【資金:UNHCR】

2014年に引き続き、モスリムの村を結ぶ約50メートルの2本の橋梁(歩行橋)建設を実施し、2015年の4月にそれぞれ完成しました。



上)豪雨で倒壊した橋 下)完成した橋(レイヤーテーチャウン)

## 4 裁縫訓練事業 【資金:UNHCR】

2012年の紛争時に中断した、女性のための裁縫訓練を10月から再開しました。モスリム20名、ラカイン族20名の女性たちの混成グループを対象に、2つの会場で45日間、内容はミャンマー語、算数、保健衛生、裁縫の訓練をおこないました。



ミシンを使った裁縫訓練

## 5 学校校舎再建・修繕事業 【資金：JPF、Shwe Bagyi Co.,Ltd.】 自己資金

7月の洪水被災に対し、BAJは学校校舎15校の再建と修繕をおこないました。その結果約7,000名以上の子どもたちが再び安全な教室で授業を受けられるようになりました。



上から 1. 壁が吹き飛んだ教室 2. 豪雨で損壊した学校 3. 再建された学校

## 6 学校建設事業 【資金：日本財団】

2012年9月から開始した日本財団の資金による学校建設事業は、5年間で100校を目標に進め、2015年の9月からは4年次に入っています。2017年8月には100校を達成する見通しで、現在は約半分の校舎が完成しています。

建設に際しては、村の住民約20名の参加を募り、オンザジョブトレーニング(OJT)で建設技術の移転をおこないながら進めています。しかしながら熟練スタッフの退職があり、多くの建設現場を動かしていくために熟練労働者との契約形態の見直しや、新規エンジニアの補強などをおこないました。

より完成度の高い建設を進めるために、日本人専門家によるモニタリングや技術研修などの機会を設ける予定です。



上)建設現場の様子 下)2015年に完成した校舎の前で

No.	郡名	村名	施工開始日	No.	郡名	村名	施工開始日
1	チャオピュー	モージー村	1月4日	10	ラムリー	ファーラトゥ村	11月2日
2		サイチョン村	1月30日	11	ミンピャ	ケーチャウンピャ村	6月2日
3		ケンニェントゥ村	3月14日	12		チェインチャウン村	7月2日
4		カインチャウン村	3月22日	13	ミエボン	カンタートゥツ村	6月11日
5		ウィサン村	9月16日	14		ガンゴーチャウン村	9月28日
6		アワピン村	12月28日	15	アン	ゼイワー村	6月11日
7	ラムリー	レツパンアンニャ村	2月6日	16		カーマウンチャウン村	9月28日
8		アウンスイター村	5月23日	17		タンティン村	
9		ヤンティッチー村	6月4日	18		ユワーティ村	

# 2 中央乾燥地の水供給

外務省NGO連携無償資金協力による長期にわたる支援が2015年3月に終了したことに伴い、水供給事業の本部マグウェに駐在していた日本人職員を5月に引き上げ、現地の自己資金や新しい支援者からの資金のみで運営を進めました。以前からもくろんでいた「現地化」を視野に、主に井戸修繕と現地村落開発局からの依頼に対応して事業を進めました。

10月に事業の振返りをおこなったところ、月平均3～4本の修繕活動により収入もある程度確保はしていますが、自立にはまだ足りない状況なので、今後の活動方針を検討する必要があります。

## 1 新規深井戸掘削事業 【資金：外務省連携無償資金協力】

2014年～2015年にかけて以下の村に井戸を設置しました。

No.	郡名	村名	寄付者	掘削		深度 (m)	揚水量 (㎥/h)	給水槽 (㎥)
				開始	終了			
123	チャウ	ベイピン村	N連	7/17	8/2	171	2,500	5,000
124	イエナンジャウ	テルピンサカン村		9/4	10/4	248	1,800	3,000
125	ナマウ	サンゴン村		12/25	2/3	226	2,000	5,000
—		バタンゴ村	トゥンタゴン社	6/3	7/5	245	1,600	—



左)サンゴン村井戸孔内洗浄にて水を汲みに来た青年  
右)サンゴン村、新規深井戸建設。噴き上がった水

## 2 既存深井戸修繕作業 【資金：春光懇話会、自己資金】

ミャンマーに進出している日系企業の集まりである春光懇話会様の支援と、自己資金により、64本の井戸の修繕を実施しました。その内容は、孔内の洗浄、ポンプ部品交換、保管庫



ユワマ村井戸修繕。故障原因を探るため特殊カメラを井戸に潜行中

建設、揚水管交換、フィッシング、フィルター交換、水中ポンプ交換、ケーブル交換などでした。今後も修繕は増えるものと思われる。



タツカン村井戸修繕にて井戸孔内洗浄中

### 3 長期維持管理活動 【資金:外務省NGO連携無償資金協力、自己資金】

BAJマグウェ事務所敷地内に特設会場を設け、井戸修繕対象となった村39か村について、各村から2～3名の計304名の参加を得て、2回にわたって各5日間のトレーニングをおこないました。その内容は、「エンジンおよび技術者トレーニング」「水管理委員会情報共有ワークショップ」「水管理委員会運営講習会」です。

また、井戸を新しく建設した3か村と修繕をおこなった75



水管理委員会情報共有ワークショップ

か村を対象に、村の小学生を対象に衛生トレーニングを実施し、毎回多数の参加者を得ました。内容は子ども向けの3時間程度でクイズを入れた楽しいプログラムで、78か村から計4,500人以上が参加しました。



エンジン基礎トレーニングの様子

## 3 南東国境給水事業

【資金:UNHCR】

ドナーであるUNHCRは、2015年も引き続き世界的な災害や紛争への対応のため、ミャンマーに対する予算が付きにくく、半年の事業予算で開始せざるを得ず、実施運営を最小限にとどめざるを得ませんでした。

### 1 新規給水施設の建設

カレン州・モン州にある5郡を対象に、11か村で新規の給水施設を建設しました。給水施設のタイプは、重力流パイプライン5件、掘り抜き井戸3件、管井戸1件、河川を利用した揚水システム2件でした。この結果、3,149人が1年を通して水にアクセスできるようになりました。また給水地までの距離は、平均461メートルから41メートルになりました。この結果、水汲みに使っていた時間を生産活動や学習に使えるようになりました。



上)ティーボネ村開放井戸とエンジンハウスおよび給水タンク  
下)技術研修実施の様子

### 2 地質調査(GP調査)

対象の村の地下水源を確認するため、また新規給水施設の精度をあげるため、24回の電気探査調査を実施しました。

### 3 給水施設の維持管理および衛生講習

維持管理講習を11か村で開催し、193名が参加しましたが、女性の参加が30%だったので、増やす工夫が必要です。衛生講習には220名が参加し、女性は58%と高い参加率でした。その後モニタリングをおこなっています。



若者を対象にWASHトレーニングを実施



# 4 パアン技術訓練学校運営事業

【資金:外務省NGO連携無償資金協力、自己資金】

2年次の事業活動(2014年12月～2015年11月)は、建設科第3期、自動車整備科第1期・2期、電気科第1期・2期、溶接科第1期、EFI科第1期の技術訓練を実施し、166名が卒業しました。

1年次・2年次の卒業生を合わせて206名(EFI科第2期10名を除く)のうち、161名が卒業後に雇用先などを見つけることができ、就労率は78%となっています。

## 1 技術訓練

### ① 建設科(第3期:29名入学、25名卒業/期間6か月)

ミャンマー国内の典型的な木造・レンガ造・鉄筋コンクリート(RCC)建築の基礎施工技術習得をめざし、木工・石工・鉄筋加工の3科目について、オンザジョブトレーニング(OJT)で、当校施設の発電機建屋を建設しました。



発電機建屋の柱をつくっています(石工)

### ② 電気科(第1期・2期:60名入学、59名卒業/期間各3か月)

屋内電気配線の技術訓練など、国内の技術ニーズにあった教科書作成、資機材の購入をおこないました。またOJTで校内施設の電気配線や修理など実施しました。



校内の食堂の屋内配線をしています

### ③ 自動車整備科(第1期・2期:入学60名、52名卒業/期間各6か月)

単気筒エンジンおよび車両の全システム(エンジン、シャシ、電装)の技術訓練のほか、国内の技術ニーズにあったカリキュラムを策定し、それにそった教科書作成、資機材購入をおこないました。また日本からの専門家を短期および長期にわたり派遣し、ミャンマー人インストラクターを対象に、カリキュラムの最適化、教授内容・教授法などの指導を実施しました。



エンジンの分解・組立の実習中です

### ④ 溶接科(第1期:入学30名、30名卒業/期間6か月)

アーク溶接、ガス溶接、ガス切断を中心に、その他切削など金属加工に関する技術訓練を実施しました。また日本から専門家を短期派遣し、ミャンマー人インストラクターを対象に、カリキュラムの最適化、教授内容・教授法などの指導を実施しました。さらにOJTとして訓練生はベンチやテーブル、棚を制作しました。



もくもくと溶接の実習に取り組んでいます

⑤ 自動車整備科特別講座「電子制御燃料噴射装置対応」(EFI科)(第1期:13名受講、13名修了/期間1か月)

自動車整備科第1期卒業生のうち成績優秀者13名を対象に、国内で主流になりつつあるEFIの車両の原理・構造から点検・修理法の訓練を実施しました。またミャンマー人インストラクターを対象に、BAJの技術オフィサーがEFI科カリキュラム・教科書作成および技術研修をおこないました。



新しい車両整備に不可欠な技術を学びます

2 就労支援・就労状況調査

各科卒業生の就職先として、パアンやヤンゴンの企業、日系企業などに働きかけ、卒業生の就労支援を進めました。

2016年2月11日現在の2年次卒業生の就労状況は以下の通りです。

学 科	卒業生	就労者数
①建設科(第3期)	25名	17名
②電気科(第1期・第2期)	59名	49名
③自動車整備科(第1期・第2期) ※EFI科第2期卒業生10名を除く	42名	34名
④溶接科(第1期)	30名	21名
合 計	156名	121名 (就労率77%)



上)日系の整備工場で働く、BAJの卒業生 下)日系企業に雇用されて研修中

3 学校運営

ETD(教育訓練局)職員をふくむ学校運営委員会により、運営方針や課題などについて意思決定を図っています。訓練生は原則全寮制のため、校則に基づいて構内の規律を図っています。また訓練生の健康については、必要に応じて病院での受診や家族への連絡などの対応をしています。



上)毎朝職員がその日のタスク業務の進捗を確認します 下)3食とも食事を提供しています。けっこうおいしいごはんです

# 5 ヤンゴン事務所

ミャンマー各事務所の人事、スタッフ移動やビザ発給申請、物資調達、保険業務、会計とりまとめ、中央政府との交渉・報告などおこないました。

## 1 会議の開催

ヤンゴン事務所は海外駐在員が集まりやすいため、全体会議などをヤンゴンで開催しています。2015年は、3月25日～27日にかけてミャンマー年次会として、ミャンマー国内の各事務所からリーダー3名を招へいし、計25名の現地職員による会合で、課題や今年度の目標などについて検討しました。

10月8日～9日は、東京事務所からの参加も得て「BAJ経営会議」を実施し、取り組んだ課題の進捗状況の確認や中期計画の沿った今後に向けての検討をおこないました。

引き続き10月10日～11日は、同じくヤンゴン事務所で日本人全体会議を実施し、各事務所の駐在員が事業進捗を報告し、課題解決に向けた検討をおこないました。



日本人スタッフによるヤンゴンでの会議

## 2 エーヤワディーデルタ災害リスク低減事業 【資金:国際航業株】

国際航業株がデルタ地域で実施している「沿岸部防災機能強化のためのマングローブ植林事業」の防災プログラムについてBAJとして取り組み、住民を対象に防災訓練プログラムを実施しました。

2年次となる2015年は、9月に仮事務所を開設し、関係者への説明、カリキュラムや研修で使う教材を作成し、ワークショップを11月～12月に実施しました。2015年の研修は右記の通りおこないました。

No.	日程	実施地/対象	研修名
1	11月21日 ～23日	ケインチャウンジー村/ 小中学生30人(含PTA)	子ども防災研修
2	11月25日 ～27日	タヨーチャウン村/ 小学生30人(含PTA)	
3	11月29日 ～12月1日	ゲイチャウンジー村/ 小30人(含PTA)	
4	12月3日 ～5日	タヨーチャウン村/ 大人30人	コミュニティ 防災研修
5	12月7日 ～9日	ゲイチャウンジー村/ 大人30人	
6	12月11日 ～13日	ケインチャウンジー村/ 大人30人	



上)防災植林の現場監督らへの災害リスク低減研修。災害と避難誘導の知識・技能を身につけてもらった 左下)住民や子どもの研村落修では、ゲームや映像教材を活用した 右下)植林作業者を想定した避難訓練。低湿地のデルタでは、避難にボートが必要

子ども研修におけるグループワーク。村内を歩いて危険箇所を確認し、ハザードマップを作成



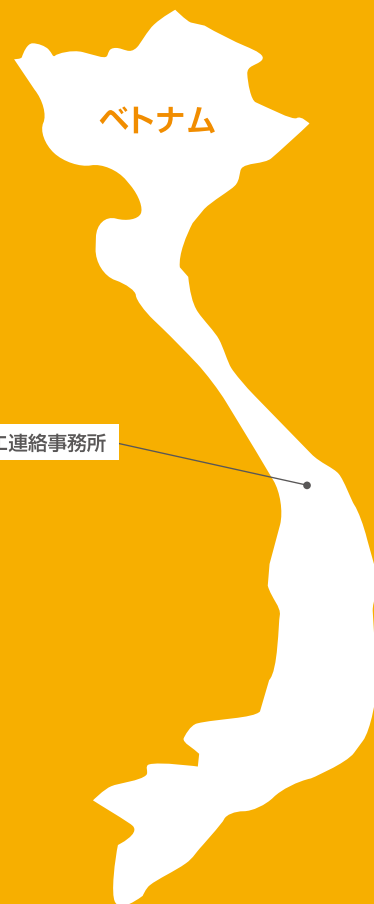
## 海外支援活動事業

# ベトナム・トゥアティエンフエ省での生活改善活動

1993年から支援を開始したベトナムでは、2012年からは活動拠点をホーチミン市からトゥアティエンフエ省に移し、生活改善事業を進めてきました。2015年はベトナムの法制度に従って、海外NGOを管轄する外務局、計画投資局、傷痍軍人労働社会福祉局、公安などへの行政手続きを着実にこなった結果、諸機関からの評価を得られました。今後の事業活動への信頼関係を築くことができました。

2004年から子どもたちを対象に、環境と教育支援事業をフービン地区で開始しました。観光地として有名な王宮ですが、観光客の目にふれない城壁に沿って、地方からの出稼ぎの人たちが簡素な家を建てて住み着いている地区です。またフエ市内を流れるフォン河の支流には、水上生活の船が連なり、川砂の採取で生活している貧困層の人たちがいます。BAJはこの地域を対象に、マイクロクレジットや識字教育、保健衛生の活動を実施してきました。子どもたちには、学習支援や、住んでいる地域をきれいにとごみ分別回収もおこないました。

現在は、小学校や中学校での環境授業や活動と同時に、フエ市近郊の貧困農家の収入向上を目標とした事業に取り組んでいます。バイオガスダイジェスターの設置導入により、家畜飼育農家が抱えていた問題を改善へと導き、同時に、農家が生産した安心安全な野菜や精肉などを扱う直売所をオープンし、生産者と消費者をつなぐ試みを進めています。



# 1 環境の問題を考える

【資金: 株式会社LIXIL、キヤノン㈱、エコポイント、輝けアジアの子ども基金】

それぞれの学校や地域の子どもたちを対象に、授業や活動を通じて環境の問題を考えました。

## 1 トゥイスワン小学校

学校のカリキュラム「生きる力を伸ばすための活動」時間の一部として、小学3・4年生の6クラスの子どもたちが、BAJの環境学習に参加しました。主な内容は、「水の汚染が人の健康に与える影響について」「手洗いの学習」「家から出る排水の行方」「トイレについて」などで、最後に環境学習についての感想文を書いてもらいました。



上) 教室での事前学習の様子、日本や外国の例を出して学ぶことも  
下) 川や学校のまわりで採取した水を、パックテストを使って調べます

## 2 トゥイスワン地区環境グループ

地域の子どもたち2グループの15名からなる環境グループが、夏休みの6・7月に活動しました。内容は「家畜の糞尿による汚染とバイオガスダイジェスターについての学習」と「フォン河の水質調査と調査結果のまとめ」をおこない、同時に地域の農家とともに農業の体験もおこないました。

グループ名	学 年	参加人数
カーハット(歌を唄おう)グループ	3～8年生	8名
トゥーヒエウ(有名なお寺の名前)グループ	3～4年生	7名



地域の農家(中央)の畑にて、収穫体験、食べごろの野菜を教わりました

## 3 ラムモンクアン中学校

6・7年生(日本の中学1・2年生)の希望者36名を対象に、放課後に環境問題について勉強・実践する「環境学習活動クラブ」を実施しました。内容は「廃油についての調べ学習」「簡易排水処理設備の仕組み」「ごみ分別とごみ箱作成」「樹木のCO2吸収量の学習と実践」などで、最後に活動発表会を実施しました。



左上) 地域の農家が先生となり、有用植物についてフィールドワークをおこないました 左下) 食の安全について学び、まとめ学習としての作画の様子 右) 自分の意見をしっかりと発言するフォンちゃん

#### 4 (株)LIXILとの環境ワークショップ

3月と7月にドナーである(株)LIXILの社員の方々が現地を訪れ、BAJの環境活動に参加している子どもグループを対象に、ワークショップを実施しました。その内容は右記の通りでした。



上)「電気」についての学習成果を発表、手前は子どもたち自作の模型  
下)「リサイクル」と「衛生」についての学習では、古い石けんを集め、リパッチ石けんを作製

日程	内容	対象
3月3日	水のテキスト授業 子どもたちの活動発表 簡易ろ過装置実験、結果発表	トゥイスワン小学校 3年1組～3組
3月4日	子どもたちの活動発表 リパッチ石けんづくり	トゥイスワン小学校 4年1組～3組
3月5日	子どもたちの活動発表 リパッチ石けん・廃油石けんづくり	ラムモンクアン中学校 6・7年生環境活動クラブ

日程	内容	対象
7月27日	子どもたちの活動発表	トゥイスワン地区 カーハット・トゥーヒエウグループ ラムモンクアン中学校 6・7年生環境活動クラブ
7月28日	バックマー国立公園自然観察 川の水源の理解活動	カーハット・トゥーヒエウグループ 6・7年生環境活動クラブ



汚水がろ過され、ゆっくり透明な水になっていく様子にくぎづけ

## 2 教育支援

【資金: 輝けアジアの子ども基金】

2004年から開始した基金は、2015年末で毎月35名のドナーにより44口のご支援をいただき、ベトナムの子どもたちの奨学金として使わせていただいています。10月にトゥイスワン地区人民委員会、トゥイスワン小学校、ラムモンクアン中学校と協議のうえ奨学金の支給児童を決定し、12月に奨学金の授与式をおこないました。支給の実施状況は右記の通りです。

グループ	地域	対象学年	人数
ラムモンクアングループ	フーロック郡ヴィンミー村	6～9年生	61名
フオンロングループ	フエ市フオンロン地区	9年生	1名
トゥイスワングループ	フエ市トゥイスワン地区	4～9年生	16名
合計			78名



トウイスワン小学校での奨学金授与式の様子



貧しい家庭の多いヴィンミー村では奨学金支給の子どもたちが多くなっています

### 3 農畜産業の経営強化支援

【資金: JICA草の根技術協力事業(パートナー型)、(株)LIXIL】

2014年5月～2019年4月の5年間の事業として「フエ市零細農家向け農畜産業経営強化支援事業」が採択されました。2015年度は、トウイスワン地区、トウイビエウ地区、フオンロン地区の3地区を対象に、バイオガスダイジェスター(BD)の設置、農畜産物販売による収入向上を目指して事業を進めました。

#### 1 バイオガスダイジェスター(BD)の設置拡大事業

対象地区内の家畜飼育農家の調査をおこない、BD設置候補農家を選出し、18世帯に設置しました。また、BD設置の農家同士でバイオグループを組織し、日常の情報交換や販路拡大に向けたミーティングをおこないました。

BDの建設費用は約5万円で、農家にとっては高額な出費となるため、BAJが90%、フエ市から補助金10%を使って設

置します。設置から2か月後を目途に、設置農家は1日当たり7,000ドン(日本円で約34円)を返済し、積み立てた金額を「BDファンド」として、BD設置を希望する農家の導入費用に充てています。

現在JICA事業で設置したBDは2015年9月現在で23基、2011年の地球環境基金などによる設置数と合わせると全部で60基にのぼっています。



BD設置のための穴掘りは一家総出で1日かかり



BDから発生したガスで豚のエサを煮込みます

## 2 直売所「フエ農家の店」運営事業

2014年12月にフエ市のメインストリートのハイバーチオン通りに開店した直売所「フエ農家の店」は、現在9世帯の農家に支えられて順調に運営しています。

6・7月は夏季に収穫できる作物の種類が少ないこともあり、売上げが大幅に減少しましたが、ポスティングやSNSなどの広報を強化した結果、9月以降、とくに11・12月は大幅に売上げが伸びました。



毎月の農家ミーティングは直売所の意思決定の場でもあります



上)豚肉の新鮮さはお墨付! お客さんからも定評をいただいております  
下)お客さんのリクエストに応え、新たに栽培を始めた作物も

## 3 農家・行政関係者の日本研修

8月21日～30日にフエ市のバイオグループ農家3名と行政関係者5名を日本に招へいし、直売所やレストラン、有機栽培農家・家畜飼育農家などを訪問し、研修を受けました。主な訪問先は以下の通りです。

日程	内容
8月21日	オリエンテーション
8月22日	うどん屋「一文字」と水田、稚愛媛の里、名刀味噌(岡山)
8月23日	備前福岡の市 視察(岡山)、京都へ移動
8月24日	レストラン「都野菜賀茂」店舗視察、契約農家3件視察(京都市)
8月25日	南伊丹市美山支所訪問、セミナー(美山農産物認証制度について)、周辺直売所視察
8月26日	京都市表敬訪問・意見交換、東京へ移動、大江氏(commons代表)との会食
8月27日	ナチュラルハーモニー店舗視察、同契約農家視察(千葉・横浜)
8月28日	みやじ豚視察(神奈川)
8月29日	報告会準備、報告会実施



上)ナチュラルハーモニーの契約農家(自然栽培)で栽培日誌を見せていただきました 下)京都の今井農園では、エコファーマー認定やコンパニオンプランツのお話を伺いました



知っていますか？  
ミャンマーのこと



張り子の売り上げの一部は  
ミャンマーに「本と玩具を贈る」  
基金に寄付されます



海外支援活動事業

## 東京本部・国内事業報告

2015年はさまざまな外部団体との連携が始動しました。東京おもちゃ美術館(TTM)との共同事業「Book & Toy」が軌道にのってきました。また、主にパアン技術訓練学校への専門家派遣に協力していただいている技能ボランティア海外派遣協会(NISVA)については大変助けていただいています。また2011年からご協力いただいている日光物産(株)との共同事業「フルクル」は定着してきました。今年にはミャンマーに進出している企業がメンバーとなっている春光懇話会や、(株)熊谷組からのご支援で共同事業を進めることができました。

11月にはJANICによる「セルフチェック2012」を受けて、事業運営の見直しの機会としました。規程類などを整備し、支援者の皆様に信頼していただけるような組織運営に注力しました。



# 1 東京事業

東京事務所独自の事業として、資金獲得と支援者拡大のための事業をそれぞれ立ち上げて、広報に努めました。

## 1 フルクル事業【協力:日光物産(株)】

2011年より開始したフルクル事業は、ご家庭内の不要となった衣類を寄付してもらい、日光物産(株)に買い取ってもらった金額を寄付していただく事業ですが、リピーターも増えています。またルミネなど集合店舗による「古着回収イベント」も定着してきています。さらに買い取り価格を引き上げていただき、今後も東京の中心事業として拡大を図っていきます。



いただいた衣類は1トンに梱包されて、海外に運ばれます

## 2 HAPPY BOOK【協力:ブックオフコーポレーション(株)】

HAPPY BOOK事業では、読まなくなった本や聴かなくなったCDなどを寄付してもらい、Book offに買い取ってもらった金額に10%を上乗せし、寄付として頂いています。お申し込みはBAJのホームページをご覧ください。他団体や自治体による回収もあり、なかなか浸透していないのが実情です。引き続き、広報に努めていきます。



## 3 Book & Toy【協力:東京おもちゃ美術館、ANA、ともいき(財)、一般寄付】

BAJがこれまでミャンマーの中央乾燥地域に設置してきた井戸のある村の小学校を対象に、子ども向けの本と、けん玉や輪投げなどのおもちゃをセットした棚にして寄贈するプログラムです。2015年に開始して3年間で100校をめざしています。これまでにクラウドファンディング、寄付などで資金を集めています。

棚には寄付していただいた方のお名前をプレートにして表示しており、希望する方は学校を訪問して子どもたちと触れ合うこともできます。

# 2 広報活動

BAJの活動を皆様に広く知っていただくために、さまざまな活動をしています。これまでに多くの方に参加していただき、ご支援をいただいています。

## 1 情報発信

BAJ全般を知っていただくためのホームページはもちろんのこと、海外駐在のスタッフによる活動報告の記事を掲載するBAJ通信を年4回で発行しています。

また、毎月2回メールマガジンを発行して、直近の事業報告やBAJが開催するイベントや報告会、ボランティア募集などのお知らせを発信しています。さらに、BAJ通信の発送にあわせて「BAJカフェ」を開催し、ボランティアやインターンを希望する方を対象に活動紹介をおこない、お茶やお菓子をいただきながら、簡単な作業に参加していただいています。



BAJカフェでBAJの活動紹介

その他、海外駐在員の現地での日々の様子をお伝えするブログやFacebookなどのソーシャルネットワークも活用し、活動の迅速な報告を心がけています。

総会終了後には、年次報告書を発行し、会員や支援者に送付しています。



もくもくとBAJ通信の封入作業

## 2 報告会やイベントの開催

海外事業所で働く駐在職員が帰国した際を捉えて、「活動報告会」を開催し、現地事業の進展の様子を報告しました。そのほかに、「グローバルフェスタ」「ミャンマー祭り」などのイベントに出展しました。また、事業活動報告の機会があれば積極的に参加してBAJのアピールをおこないました。



上)帰国した駐在員による報告会 中)イベントでの販売もボランティアさんが活躍 下)ベトナムのイベントでは、子どもたちが熱心に粘土工作

# 3 海外の事業支援

海外での活動に必要な物資や技術専門家など、また通関や渡航に必要なさまざまな事務作業について、スムーズな活動のために現場からの要請に応じて必要な支援をおこないました。

## 1 専門家の派遣

パアの技術訓練学校の進展とともに、インストラクターに対する技術指導が必要となっており、適切な人材を派遣するとともに、2年次となって本格的な稼働に伴い、自動車整備士養成課程に必要なマニュアルや教科書など指導していただきました。

2015年に派遣した専門家は右記の通りです。

期 間	専 門 家	内 容
12月21日 ～1月4日	安藤 祥二	ミャンマー・カレン州バアン事務所／ 車両整備技術指導
3月3日 ～6月2日	久 由美	ミャンマー・ラカイン州マウンダー事務所など／ 車両整備技術指導
3月31日～ 2016年3月8日	金澤 正一	ミャンマー・カレン州バアン事務所／ 車両整備技術指導
5月4日～14日 8月2日～16日	西田 隆法	ミャンマー・カレン州バアン事務所／ 溶接技術指導に関するアドバイス

(敬称略)

## 2 物資の調達

ミャンマー事業では、水供給事業で泥水ポンプのパーツの調達や、ボアホールカメラの修理を米国に依頼する必要があるなど時間がかかりました。またバアン技術訓練学校では専門家の指導により必要なマニュアルや教科書の入手を進めました。

ベトナム事業では、直売所の開店に伴い、エコバッグ、キッチン用品、保冷剤のほかに、環境教育で必要な水質調査キットや大腸菌簡易検出キットなどを調達しました。

## 3 招へい者の受入れ

2015年はベトナム「フエ市零細農家向け農畜産業経営強化支援事業」の一環として、フエの農家と行政関係者、BAJベトナムスタッフなど、計11名を受入れ、視察先との交渉や日程調整、アテンドなどを実施しました。



上)ベトナムからの視察団御一行 下)視察団の報告会では、ベトナム料理やTシャツを販売

# 4 管理業務

総会・理事会などの意思決定機関の運営や、各国事務所間の情報共有のための会議など適宜実施しました。また事業資金の調達として、ドナーの開拓、新規事業の仕掛け、募金活動、会員の拡大などを進めています。2015年にご支援いただいた団体様は以下の通りです。個人様からのご寄附は、個人情報の観点から割愛させていただきました。

	機関・団体名(順不同、敬称略)
ミャンマー	外務省NGO連携無償資金協力、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、日本財団、国際航業(株)、ブリッジヤーズ(有)、(株)ロイヤルマーケティング、Aphyu、WAVE、三菱商事(株)、ミャンマー春光懇話会
ベトナム	JICA草の根技術協力事業(パートナー型)、環境アリーナ研究機構、キヤノン(株)、(社)環境パートナーシップ会議、緑の会、(株)LIXIL、アズビル(株)、輝けアジアの子ども基金
一般	東京神宮ライオンズクラブ、(株)大木組、(株)日本開発サービス、日光物産(株)、WAVE、(株)ピース・イン・ツアー、(有)集設備、(有)いどシール、(株)ピロタス、(株)ダイナックス、(特非)ケア・センターやわらぎ、(有)峰秀興業、ブリッジヤーズ(有)、キャピタル工業(株)、国際航業(株)、(株)ソウワコンサルタント、東京立川こぶしロータリークラブ、立教大学、(株)フクダ・アンド・パートナーズ



理事会では四半期ごとの報告をおこないました



3月に総会を開催しました

## 1 ボランティアやインターンの受入れ

ボランティアやインターンはいつでも受け付けています。BAJのホームページからアクセスできます。また3か月に1回、BAJ通信の封入作業などを行う「BAJカフェ」を開催しています。とくにベトナムのフエでは、日本からのインターン生を受け入れました。



インターン生が広報作品をスタッフに説明

## 2 現地視察のサポート

ミャンマーとベトナムのBAJ活動現地の視察を希望する場合、あらかじめ東京事務所に連絡いただいて、受け入れ費用など調整をしています。特にミャンマーでは、現地訪問のための許可やビザ取得などに時間がかかりました。

2015年は、ベトナムに4回、ミャンマーに1回、計26名の方の現地視察をお手伝いしました。



琉球大学のベトナム視察を受け入れました

## 3 ネットワークへの参加

国際機関や行政機関、NGO・NPOの連合体が実施するネットワークに積極的に参加し、情報共有や意見交換をおこないました。2015年のネットワーク活動に参加した主な機関や団体は次の表の通りです。

団体・グループ名	内 容
動く→動かす	NGO・NPOのアドボカシー発信の強化を目指す
J-FUN	UNHCRと連携するNGO団体による交流・情報共有
JPF	緊急救援の資金提供団体、全体会議とミャンマーワーキンググループがある
NGO・外務省定期協議会	協議会から派生して「連携推進委員会」がある
NGO・JICA協議会	JICAとNGOの意見交換と情報共有
JANIC	NGOの連携団体、「企業連携推進ネットワーク」にも参加

## 4 職員の研修

必要に応じて職員のスキルアップのために、研修やセミナー、情報収集などを目的に参加した主なプログラムは以下の通りです。

日 程	プログラム名
1月19日	セールスフォース講習会
1月21日	NGOのための災害リスク軽減のワークショップ
1月26日	人道支援の新国際基準(CHS)報告会
2月2日	NGOの安全対策に関する国際比較調査シンポジウム
2月5日	国際教育協力日本フォーラム
2月11日	人道&緊急支援の国際基準トレーニング(~12日)
3月24日	学習院大学・セミナー「ロヒンギャの現状」
4月24日	プロジェクト進行管理成果情報シンポジウム
8月4日	セールスフォース・ユーザーグループ・NPO分科会
8月14日	PCM研修・計画立案(~16日)
8月22日	PCM研修・モニタリング評価(~30日)
11月20日	ゆうちょ財団報告会
11月26日	UNHCRグテーレス高等弁務官講演会
11月29日	JPF・緊急救援研修(~12月5日)
12月4日	シーズ・マイナンバー制度勉強会



人道&緊急支援トレーニングの全日程終了後、各ワークショップの内容を参加者が評価中

# 2015年会計報告

## 活動計算書 (自2015年1月1日～至2015年12月31日)

### 【経常収益】

		(単位：円)	
1. 受取会費(注1)		1,390,000	1,390,000
2. 受取寄付(注2)		21,569,580	21,569,580
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	186,342,192	329,657,280
	受取補助金(注3)	143,315,088	
4. 事業収益		7,611,554	7,611,554
5. その他収益		691,939	691,939
経常収益計(A)			360,920,353

注1 受取会費内訳		(単位：円)
個人会費		1,090,000
団体会費		300,000
受取会費計		1,390,000

注2 受取寄付・受取助成金内訳		(単位：円)
BAJ一般		3,012,955
まるごとサポーター		1,821,000
ミャンマー		200,295,711
ベトナム		1,722,106
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)		1,060,000
受取寄付・受取助成金計		207,911,772

※主な寄付先は「国内活動報告1 認定NPOと資金の調達(1)資金調達」にある表をご参照ください。

### 【経常費用】

		(単位：円)	
1. 事業費	人件費	95,922,548	345,480,334
	その他経費	249,557,786	
2. 管理費	人件費	12,536,581	22,130,870
	その他経費	9,594,289	
経常費用計(B)			367,611,204
当期正味財産増減額(A)-(B)			-6,690,851
前期繰越正味財産額(C)			74,929,783
次期繰越正味財産額(A)-(B)+(C)			68,238,932

### 注3 受取補助金内訳 (単位：円)

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)		
・ミャンマー/ラカイン州における車両等機械類の修理・整備と農業用機械、裁縫研修		32,478,455
・ミャンマー/南東地域における新規給水施設建設、既存の給水施設の修繕		31,935,038
国際協力機構		
・ベトナム/フエ市零細農家向け農畜産業経営強化支援		13,511,819
外務省		
・ミャンマー/中央乾燥地マグウェ地域における生活用水供給		17,491,313
・ミャンマー/カレン州/バアン市における職業訓練学校運営		47,898,463
受取補助金計		143,315,088

## 事業別損益の状況

科目	ミャンマー					ベトナム事業	国内事業	事業部門合計	管理部門	合計
	ラカイン州 地域開発事業	ラカイン州 学校校舎建設と コミュニティ開発	中央乾燥地域に おける生活用水 供給事業	南東国境事業	カレン州 バアン事業					
<b>I 経常収益</b>										
1受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,390,000	1,390,000
2受取寄付金	1,328,336	1,647,210	11,892,103	175,856	263,674	1,621,392	0	16,928,571	4,641,009	21,569,580
3受取助成金等										
受取助成金	9,884,669	175,103,863	0	0	0	1,160,714	0	186,149,246	192,946	186,342,192
受取補助金	32,478,455	0	17,491,313	31,935,038	47,898,463	13,511,819	0	143,315,088	0	143,315,088
4事業収益	85,177	339,683	1,570,644	37,689	40,529	35,550	5,263,281	7,372,553	239,000	7,611,554
5為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6その他収益	259,744	119,853	18,414	19,125	28,675	17,562	0	463,373	228,566	691,939
経常収益計	44,036,381	177,210,610	30,972,475	32,167,708	48,231,341	16,347,037	5,263,281	354,228,833	6,691,521	360,920,353
<b>II 経常費用</b>										
(1)人件費										
給与手当	25,138,433	25,271,957	8,386,384	9,962,456	22,942,870	4,096,365	124,083	95,922,548	7,823,679	103,746,227
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	0	4,231,102	4,231,102
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	0	0	481,800	481,800
人件費計	25,138,433	25,271,957	8,386,384	9,962,456	22,942,870	4,096,365	124,083	95,922,548	12,536,581	108,459,129
(2)その他経費										
資機材費	14,439,678	122,451,737	11,655,558	14,530,369	27,600,256	4,700,295	82,564	195,460,457	0	195,460,457
広報印刷費	2,492	10,028	1,753	1,820	81,509	34,779	1,010,860	1,143,241	130,974	1,274,216
旅費交通費	1,942,626	5,428,459	1,153,760	2,743,010	1,832,891	3,271,724	715,454	17,087,924	1,065,691	18,153,615
通信運搬費	1,043,032	1,118,374	637,896	271,894	443,546	114,638	262,084	3,891,464	418,911	4,310,375
消耗品費	425,328	1,058,493	303,663	453,765	545,049	258,231	298,320	3,342,849	1,303,164	4,646,013
修繕費	1,968,110	6,868,617	969,544	1,161,115	815,770	0	37,080	11,820,236	0	11,820,237
賃借料	1,436,379	3,104,709	1,063,751	2,441,646	2,174,217	356,580	8,524	10,585,806	612,520	11,198,326
減価償却費	0	0	154,221	0	0	0	0	154,221	0	154,221
保険料	681,540	514,063	260,807	248,111	304,252	31,880	0	2,040,653	1,588,153	3,628,806
調査研究・研修費	36,928	11,326	1,286,981	401,122	204,177	275,590	0	2,216,124	27,041	2,243,165
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	356,150	356,150
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	4,900	4,900
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	157,800	157,800
支払手数料	54,619	101,267	25,531	25,420	47,384	9,168	4,175	267,564	404,089	671,653
為替差損	0	0	0	0	0	0	0	0	2,093,586	2,093,586
雑費	304,071	178,036	765,453	33,410	224,858	41,417	0	1,547,245	1,431,310	2,978,555
その他経費計	22,334,803	140,845,108	18,278,919	22,311,683	34,273,910	9,094,302	2,419,061	249,557,786	9,594,289	259,152,075
経常費用計	47,473,236	166,117,065	26,665,303	32,274,139	57,216,780	13,190,667	2,543,144	345,480,334	22,130,870	367,611,204
当期経常増減額	-3,436,855	11,093,545	4,307,171	-106,431	-8,985,439	3,156,370	2,720,137	8,748,498	-15,439,349	-6,690,851

## 貸借対照表 (2015年12月31日現在)

### 【資産の部】

(単位：円)

流動資産	現金預金	現金	447,007	237,982,047
		流動性預貯金	67,004,752	
		ミャンマー現預金	166,084,605	
		ベトナム現預金	2,535,121	
	流動資産	立替金	172,161	
		未収入金	0	
		前払金	0	
		仮払金	38,368	
固定資産	有形固定資産	未成工事支出金	1,700,033	308,446
	投資その他の資産	機械装置	308,446	
		敷金	0	
資産合計				238,290,493

### 【負債の部】

(単位：円)

流動負債	未払法人税	157,800	166,230,746
	その他未払金	900	
	前受会費	30,000	
	前受寄付金	0	
	前受助成金	154,205,941	
	前受補助金	10,006,550	
	その他前受金	0	
	預り金	1,112,175	
固定負債	仮受金	717,380	3,820,815
	退職給付引当金	3,820,815	
負債合計			170,051,561

### 【正味財産の部】

(単位：円)

前期繰越正味財産	74,929,783
当期正味財産増減額	-6,690,851
正味財産合計	68,238,932
負債及び正味財産合計	238,290,493



## 財務諸表の注記

### 1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日・2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

#### (2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金  
スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合要支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

#### (3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

### 2. 用途等が制約された寄附金等の内訳

(単位：円)

内容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	期末残高	備考
ジャパン・プラットフォーム/ミャンマーラカイン州マウン一部における学校校舎再建、及び修繕事業	0	9,884,669	9,884,669	0	前受補助金/助成金及び未収助成金・事業期間 2015/9/15～2015/12/31
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州における車両等機械類の修理、整備と裁縫技術訓練	0	32,855,993	31,125,548	0	1,730,445 2015/1/1～2015/12/31
日本財団/ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発事業	110,705,733	218,221,391	175,103,863	0	153,823,261 2014/9/1～2015/8/31 2015/9/1～2016/8/31
春光懇話会/中央乾燥地域村落給水事業支援	0	2,540,370	2,020,340	0	520,030 2015/7～2015/12
外務省/ミャンマー中央乾燥地マグウェ地域における生活用水供給事業	17,491,313	0	17,491,313	0	0 2014/3/21～2015/3/20
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・南東地域における新規給水施設建設、既存の給水施設の修繕	0	31,610,566	24,501,309	0	7,109,257 2015/1/1～2015/12/31
外務省/ミャンマー・カレン州/バアン市における職業訓練学校運営事業	107,905	47,971,713	48,006,368	0	73,250 2015/3/1～2015/11/30 2015/12/14～2016/12/13
独立行政法人国際協力機構/ベトナム・フエ市等稲農家向け農畜産業経営強化支援事業	652,271	11,135,291	10,693,964	0	1,093,598 2015/4/1～2016/3/31
株式会社LIXIL/ベトナムにおける環境教育	0	1,500,000	1,144,374	0	355,626 2015/4/1～2016/3/31
公益信託 アジア・コミュニティ・トラスト アジア留学生等支援基金 アジア留学生インターン受入れ助成プログラム	0	220,000	192,946	0	27,054 2015/8/3～2015/10/4

### 3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科目	財務諸表に計上された金額	うち役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取会費	1,390,000	100,000
受取寄付金	21,569,580	459,000
管理費 賃借料	612,520	480,000
合計	23,572,100	1,039,000

(単位：円)

### 4. 固定資産の増減内訳

科目	取得価格	期中増加資産	期中減少資産	当期償却額	償却累積額	期末帳簿価格
(有形固定資産) 機械装置・井戸掘削機	15,422,173	0	0	154,221	15,113,727	308,446

(単位：円)



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303  
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395  
E-mail:info@baj-npo.org http://www.baj-npo.org/

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン

